

研修医通信 Vol. 95 令和元年 8 月

東京大学医学部附属病院 研修医 岸野祐也

まず、1ヶ月間、大変お世話になりました。様々な病院関係者の方々に助けられながら、充実した研修を送ることができました。

紀南病院に来てからは驚きの連続でしたが、何といても患者さんの年齢層の高さには驚かされました。最初に患者リストを見た時、軒並み80歳以上で動揺したのを覚えています。研修医1年目に働いていた日立総合病院のあった日立市でも高齢率は約30%、75歳以上の後期高齢化率は約15%であり、「全国平均よりも高齢化が進んでいるな」という印象を持って働いていましたが、調べてみると御浜町の高齢化率は約37%、後期高齢化率は約21%と更に上を行っていました。高齢化に伴い患者さんの抱えるプロブレムの数も増えていき、更に『退院後どこで過ごせばいいのか』『どこまでが病気で、どこまでが寿命なのか』といった社会的・倫理的な問題も出てくる、それなのに人的医療資源は慢性的に不足している…。上級医の先生方の「これが10・20年後の日本全国の姿だ」という言葉が耳に残っています。

更に、このように病院内だけでも忙しいにも関わらず、離れた地域に出向いての訪問診療や診療所での医療、地元の高校生を対象とした病院見学やメディカルラリーなど、病院外でも地域医療に貢献されている方々の姿には、ただただ頭が下がる思いです。

また、業務以外でも、いろいろな御飯屋やイベントに連れて行ってくださり気にかけてくださった、指導医の森本先生をはじめとした先生方には感謝しかありません。おかげさまで、勤務後の時間も充実したものとなりました。

私は来年から病理・基礎研究の道に進むため臨床の現場からは離れたところで経験を積んでいくことになりますが、その前に紀南病院での研修において地域に密着した医療を学ぶことができ本当に良かったです。もし臨床の現場に戻ってくることになった場合は、ここでの経験が必ず役に立つと思います。1ヶ月間、本当にありがとうございました。

鈴鹿回生病院 研修医 水谷 裕之

まずはこの1ヶ月間お世話になった指導医原田先生を始め他の先生方、コメディカルも方々、病院関係者の方々、本当にありがとうございました。最初はカルテや病棟管理でもいつもと違うことに慣れることに苦労することもたくさんありましたが、分からないことがあるたびに近くにいる先生方へ一から丁寧に教えていただき徐々に慣れていくことができました。受け持ち患者さんも多く、内科全般的に様々な疾患の患者さんを担当させていただき、とても勉強になりました。また、この地域では高齢者が多く、一人暮らしの高齢者や、家族が遠方にしかない高齢者も多くそうした患者さんの病気を治療することがゴールではなく、治療した後どこに帰るのか、食事形態はどうするのかなど、治療した後

のことも考える機会が多くあり、救急外来の間診の段階で今まであまり気にしていなかったところを気かけられるようになったことは成長できたところだと思います。

この1ヶ月間の研修での経験を今後の診療に役立てて、いつか地域に還元できる医師になりたいと思います。

1ヶ月間ありがとうございました。

